

三隅出身の梅谷さん(ドイツ在住)

グライダー日本記録

飛行距離

「故郷で教室夢」

浜田市三隅町出身で独・フランクフルト市在住の
商社社長、梅谷堅三さん(55)が昨年12月、グライダー
の飛行距離で日本記録を樹立した。4年前、操縦
していた愛機が空中分解し重傷を負った事故を乗り

越え、自身5度目となる日本記録更新。次に目指す
は世界記録更新、さらに「故郷でグライダー教室を
開きたい」という夢に向けフライトを続ける。



新記録は昨年12月9
日、アフリカのナミビア
共和国で樹立。上空で正
三角形を描くように滑空
した距離を競う「自由三
角コース距離」部門で、
約8時間半かけて滑空、
これまでの記録を約30%
更新する1047キロをマ
ークした。ことし1月11
日、日本航空協会(東京
都)が日本記録に認定し
た。

グライダーの飛行距離で日本記録を樹立した梅谷堅三さん
(右)「ナミビア共和国・ピッテルバッサー滑空場」

飛行中は上昇気流に乗
って高度5千以上に達した
段階で滑空を始め、また
上昇気流をつかむことの
繰り返し。風を切る「ツ
ー」という音だけが聞こ
え、低酸素と気圧変化で
手足がしびれる中、操縦
かんを握り、衛星利用測
位システム(GPS)や
地図を確認し飛行した。

梅谷さんの飛行歴は37

年目で、滑空技術の腕を
磨くためグライダーの盛
んな独で生活して30年。

2007年には、グラ
イダーの空中分解事故で
首や足に重症を負った。
事故がトラウマ(心的外
傷)となり、グライダー
から遠ざかったが、事故
機に同乗していて両足に
後遺症を負った仲間から
「再び一緒に飛ぼう」と
背中を押され、再開した。
グライダーに興味を持
ったきっかけは、幼いこ
ろに抱いた「無風の浜田
港上空をトンビはなぜ高
く飛べるのか」という疑
問から。子どもたちに大
空を舞う素晴らしさを伝
えようと、5年後をめど
に帰郷し、萩・石見空港
(益田市)や三瓶山(大
田市、島根県飯南町)で
のグライダー教室の開講
を夢見る。
梅谷さんは「日本記録
更新とともに世界記録を
樹立したい」と今後も挑
戦を続ける考えだ。